

同友 Aichi

2005年(平成17年) 11月1日
愛知中小企業家同友会
〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目5-18号
京校屋ビル4階
TEL (052) 971-2671(代)
FAX (052) 971-5406
Ainet http://www.douyukai.or.jp/
Eメール aichi@douyukai.or.jp
編集責任者 加藤 昌之
広報部長

◇同友会三つの目的◇

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強靱な経営体質をつくることをめざします
2. 同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的、平和的な繁栄をめざします。

基調講演

「労使見解」を軸に 真の人間尊重経営を求めて

木野口 功氏 (株)アイワード社長
(北海道同友会)

同友会事務局に勤務 700社を訪問して

一九七三年、私は北海道同友会の事務局に入局、そこで出会った七百名の経営者から中小企業に共通する課題や経営者の哲学を学ばせていただき、半年後、アイワードの前身である共同印刷に常務として入社しました。

「労使見解」に学ぶ

一九七五年に発表された「中小企業における労使関係の見解」から、経営者の姿勢、経営指針の成文化とその実践、社員を信頼できるパートナーと考え、共に育ちあう関係の大切さを学びました。中でも共育活動を重視して

きました。企業に就職することは、この社会を支え、発展させていく責任を持つことです。印刷・出版、情報処理という仕事を通して、社会のお役に立つことが私たちの使命であると教えています。



今年のフォーラムには1030名が参加

また、社会人として、当たり前のことができる人間に育て、その上に技術教育を行います。共育は会社が困るからという視点ではなく、「あなたにとって

第5分科会

激変する印刷業界で、本業を ベースに新たな業態展開

狩野 征次氏 (株)プロネート
(東京同友会)



狩野 征次氏

狩野氏が以前勤めていた会社はすべて倒産、それらの会社の経営者を平面教師として、氏は現在の会社を設立します。

設立後は最初の年を除き、印刷業界が半分になるなどの逆風の中でも、二十八期連続黒字という実績を残しています。

経営とは社員に理念を伝え信頼関係をつくり、目標を共有して情報を公開する。また、コアコンピタンスを軸にオンラインワン企業をめざしています。

営業戦略としては、自社の強みに特化し、人材育成では、ISO9001をコンサ

第1分科会

「明日の我が社」は 社員と共に

木野口 功氏 (株)アイワード
(北海道同友会)



木野口 功氏

公務員から、半年間の同友会事務局員の経験と学びをへて、印刷会社の役員に転身した木野口氏。真正面から社員と向かい、「労使見解」をベースに経営者として進む決意をします。

三つの経営方針、①情報の共有化と社員を決して差別しない民主的な会社運営、②社員の自主・自覚的行動の尊重、③目標と計画を大切に

共育活動、それが経営難であった企業を再生し、発展させる原動力となります。

木野口氏の温和な外観の内面に「経営者として社員に対する責任を果たす使命感」とも見える強いリーダーシップを感じました。社員に「知ら

第2分科会

経営指針を作った だけではだめなんだ!

永井 茂一氏 (株)ピアライフ
(滋賀同友会)



永井 茂一氏

不動産会社を立ち上げ時はバブル経済の時で、会社は経営理念がないままでも成長していきま

す。しかし時がたつにつれ「理念なき経営」ゆえに社員は辞め、トラブルも増えていきます。

そんな時に同友会と出会い、経営理念の必要性を自覚。経営指針らしきものを文化しますが、社員から「社

第4分科会

わが社の強みは これだ!

佐藤 祐一氏 (株)羽根田商会
(愛知同友会)



佐藤 祐一氏

羽根田商会の強みは、①ユニークで新しい商品の開拓、②専門知識を持った技術指向の営業マンの存在、③完璧な即納体制と在庫管理等だと佐藤氏は語ります。氏の冷静かつ正確な分析に私は感動を覚えました。

また報告の中で「強み発見の歴史は指針の歴史」ユーザーからは、多くの取引先の長は言っていることと、やっていることが違

っていると、やっつけで、言わせて、納得させる過程の重要性を詳しく解説されました。私自身と社員の意識改革の糧とします。



山根 一人氏

そこで、社員を集めて何度も一泊研修を行い、経営指針を全社員で作成し、以来、毎年数十ページになる経営指針書を作成しています。

今回の報告を聞き、あらためて経営指針の重要性を再認識することができました。また、経営指針の成文化にあたっては、経営者の「言行一致」の姿勢、社員との理念の共有、経営者の覚悟等が必要であることを学びました。

経営理念はスタッフと一緒に考え、その一部を合言葉にしました。理念を浸透させるために、採用時に理念の共鳴者を選び、月報は社長と専務で経営理念と照合します。

また、組織が拡大すると派閥などの弊害が発生しますが、氏は経営者として現場から目を離さず、早期に対応しています。

第3分科会

共に育つ経営は、理念の 浸透とトップの情熱から

山根 一人氏 (株)アール・ケア
(岡山同友会)

理学療法士によるリハビリ事業は、病院から患者を紹介され業績は右肩上がり。しか

中できらりと光る星に見られなければならない「ITは強みではなく、あくまでも自社の強みを戦略化するための道具」というフレーズがとても印象的でした。

その後、伊藤啓氏(梅浦郡製作所)の「ホームページとブログを使った情報発信」という報告と合わせ、きわめて具体的に実務的な内容に、百五十名の参加者は期待に違わぬ大きな収穫を得ることができたと思います。

藤井築業原料(株) 藤井裕子 (瀬戸地区)

第6分科会

中国に追い越される！日本の中小企業の戦略は

山田 正平氏 (株)飛球商会 (愛知同友会)



山田 正平氏

その感情を克服して共存共栄するには、「日本が世界からどう見られているかを再認識すること」だと言います。

また、「平和であり民主主義であり、人権が尊重されている」という日本の良いところを武器にして、中国に対しての日本の中小企業戦略を考えていこう」と山田氏はまとめられました。

先日中国で打ち上げられた有人宇宙船「神舟六号」のことや、家電・自動車などの工業製品の生産伸び率、GDPの成長率などを取り上げ、「すでに経済的に中国は日本を追い越している」と山田氏は言っています。

第7分科会

どうする!?! 事業継承

長瀬 生忠氏 (株)松屋栄食品本舗 原 芳伸氏 (株)三原工業 (愛知同友会)

き換えて考える事の必要性などを学びました。 犬飼 英清 (尾張南青同)



パネリストの長瀬氏(左)と原氏

どうする? 事業継承

～あなたの役割は?～

長瀬氏からは、長男を社長にするまでを語っていただきました。いきなり会社には入れず、三年の約束で取引先で修行させた後、入社させたと言います。

原氏は、現在息子二人を後継者として、受ける側のすべきことを教育中です。自分は会社を立派にし、「正直・儉約・勤勉」をモットーに姿勢を正し、後継者を信じて託したいと報告されました。

経営者にとって事業継承は会社経営の最重要課題です。誰を後継者として選ぶか、良くも悪くもそれにより今後の会社の運命が決まります。心して掛からねば。 (有)愛製製作所 鈴木善一 (海部・津島地区)

第8分科会

必要な時、融資を受けられる金融環境づくり

松波 正晃氏 (株)クリエイティブ・プロダクツ・ウエーブ 木全 哲也氏 (株)三恵社 金原 義彦氏 (株)FMCオフィス 阿部 克己氏 東邦学園大学

金融環境づくりをテーマに、阿部氏は現在の金融情勢をアンケート結果に基づいて

第10分科会

誰もが自立できる 共生の企業づくり

内田 五郎氏 (株)グローブ・プロダクツ (宮崎同友会)



内田 五郎氏

障害者を雇用することは、大変なことですが、それが他の社員の成長につながっていいと言っています。

内田氏が障害者の勤務態度のひどさに腹を立たした時、ある幹部社員から「障害者のそういう部分も引き受けて、雇ったのではないのですか」と言われ、ハツとします。

野中 知加子 (豊川地区)

て、金原氏は最近の動向と信用格付けについて金融マンとしての経験を踏まえ、報告していただきました。

一方、松波氏は金融の勉強会に参加し、知識を深める中で行った実際の融資にかかる金融機関、特に保証協会との交渉経過、そして自社の財務強化の施策の重要性、さらには金融機関との情報・コミュニケーションの大切さを報告されました。

木全氏は金融アクセスメントプロジェクトに参加することで金融問題を勉強、リレバでいう経営者の資質の項では、経営者が経営指針や計画を成文化し、金融機関側に積極的にアタックしていくことが、格付評価の向上の鍵だと報告されました。

第9分科会

逆風に立ち向う 企業家魂

三木 得生氏 三恵メリヤス(株) (大阪同友会)

よい経営環境づくりのためには、経営指針を作成し夢を語る経営者となり、財務体質を強化するという自助努力が欠かせません。また、金融機関との緊張感を持ったコミュニケーションで、情報の共有を行なっていく大切さを学ぶことができました。

①売上げ重視から収益力重視へ。②経営指針を策定し、企業のとるべき方向の成文化。③脱下請けのため別会社設立。④少数精鋭で、労使見解に基づき士気の高い人材育成。

これらは、三木氏が同友会で学んで実践した結果です。さらに各業界、各会社が企業を取り巻く具体的な問題や克服事例を集め、次の三つを語ることに「中小企業憲章」を推進に繋がると報告されました。

一九二六年創業の三恵メリヤス。順風満帆の時代から一転、今日では構造的な不況業



三木 得生氏

①自助努力できない実態を明らかにする(経営環境) ②中小企業の存在意義を明らかにする(よい会社) ③経営者と自社のありようを明らかにする(よい経営者) 報告からは、同友会の三つの目的をまとめていく作業が、「中小企業憲章」であることが理解されました。

(株)加藤設計 加藤 昌之 (千種地区)

第11分科会

見学分科会

「貢献・信頼・相互理解」 3つの視点から考える地域と中小企業

中山 勝比古氏 (旬)日間賀観光ホテル (愛知同友会)

当日分科会は一泊で行われ、前日の日間賀島での会合から始まり、「日間賀島観光ホテル」にて、遠く広がる海とさわやかな海風を浴びながらの勉強となりました。

翌朝は日間賀島浄化センター(株)エステムが設計管理)の見学の後、一路、名古屋のフォーラム会場へ。基調講演の後、再び分科会に入り、中山氏と原田氏の報告があり、「かじき料理」と地酒「かじき」のコラボレーションの話

※第11分科会の詳細は次回「同友A i c h i」(12月1日号)に掲載します。



地域の人材育成を語る(1日目)



日間賀島浄化センターを見学する

教鞭をとられた二名の教育者に当時の苦労話や島の特徴、そしてその変遷振りなど

「かじき料理(漁師料理)」と、この料理にあう原田酒造の地酒の利き酒を兼ねた宴会が開かれ、参加者全員大いに満足しました。

第12分科会

特別分科会

同友会の歴史を刻む

昨年引き続き、「企業家魂で歴史を切り開いてきたリーダー達」の皆さん、大先輩・先駆者にお集まりいただき

く良いこと存じます。お招き頂いて本当にありがとうございます。

健康面の理由での欠席の方が多く残念でしたが、それでも二十数名の方々にご出席



左から阿部、金原、松波、木全の各氏



同友会の歴史を刻んだ皆さんの記念写真

同友会の現状の質疑応答や希望、注文など、いまだ衰えない会への強い愛情を感じさせていただき、忘れてならない活動の原点をお教えいただきました。

本来感謝を捧げなければならぬ私達の立場が、逆にこれほど喜んで待たれる場になっていきます。今後の先輩諸氏に対する課題も明確になったと感じた次第です。

(株)カスク 廣瀬 嘉人 (愛知同友会副会長)